

Yokohama Sight

とりのうみかい
鳥ノ海開

ナメック星から

やってくる

モン・アミ

えっ大和市に行きたいかい

米軍防衛星都市の賑わいしかの大和にはなんもないよ、バザールは寂れてりや
yama『春を告げる』がLOOPするイヤホンから両耳を引きちぎり

明け方のブラッディマリーの匂いが漏れる息をさせながら

案内しようか Yokohamaを

3光年ぶり！ といって共に拳で挨拶を交わす

横浜という海の玄関口には

悲しいほどに不誠実なロープウェイが掛かっていて

消え去りし亜細亜の爆買い団体の客入りを見込んだぴかぴかのボディもいまや鈍色だ
ゴンドラには佐村河内守の交響詩『Sakura Apocalypse』が流れて
さながらニッポン礼讃の近未来SF三文浪漫だ

そういえば宿題にしていたけど、

S・R・デイレイニーの小説『トロンタワー』は読んだかい、

モン・アミの触角が愉しげに震えて

精妙な緑の光の瞬きに『Yogy Froggy』を執筆中だと伝える

NEWomanも駅ビルの上に来たんだ

屋上には遊具はないが

不純性異星交友するための経済学的ナンパスポットだね

人人はカプリソを聴き夕景を出しにしてアルマダ艦隊沈没のごとき愛の夢を語るんだ

宇宙船ホテルウガンダムは70年代アニメブーマーのレトロ回顧な赤錆びた臭いがするよ
ムンバイのバンダイ支店から調達され観光の目玉に見立てたというが

元老院派女性市長・林インカマヤのIRRカジノ資本主義は

落日を迎えるこの星に手花火のごとく虚しみのスパークルを放っているのさ

Stardust of Yokohama

鳥ノ海開

かの茶色き時代、山下公園近くスワイヤ商會の建造物を登記した代書屋の曾祖父は外人墓地の一隅に眠ってるのに、そこにゃあ手向けの花一輪もなしだ

アミよ、君は何と言うべきや

この町の港を

ハマという御仁…

ハマヨコという異邦人…

〈港の星たち〉という野球着を着てトボトボ噴水公園を大移動しているのはカナガワンで生粋のハマっ子は意外にも埼玉に移住さ

誰もこの町は易学者が占卜に基づいて区画を敷いたという史実は知らんのよ

僕はモン・アミと連れ立ち苦いコーヒーも良薬だろうとジャズ喫茶ちぐさきに座し

「呉での海物語（パチンコ戦歴）を一頻り語り

クリフォード・ブラウンの『Stardust』を聴き終えたら

レストラン・マリッルージュにはプラナリアの静電気で駆動するaido 犬糧型シクロで移る

横浜の母校はもう潰れたが罅割れた教室の壁には日日是決戦と貼られていた

あの海軍省通信校の学び舎が懐しいよ、教えられたよ愛国でなく愛港たれと、

それにしても手旗信号や手漕ぎ教練だけでなく詰襟ほどきつかったものはなかったな

隣にいる女からもらったVirginia slimを吐きながら呟いた

ハマのドンは、カクテルパーティーや献血ルームを齎したが公衆衛生検査は失策だったね、変異するVirusのようなる恒星風渡来のサブリミナル信号音には参るわな、

中高生らの鼓膜をやわにして勝手に踊り出すノイズ粒子を内耳の奥に仕舞い込んでやらあ

未明、トリニダード・トバゴの高速増殖炉もんじゅで老若男女の偽札作りが判明という

早口言葉じみた通報が心臓のリアクターに入って点滅、別れの時間とホイきた

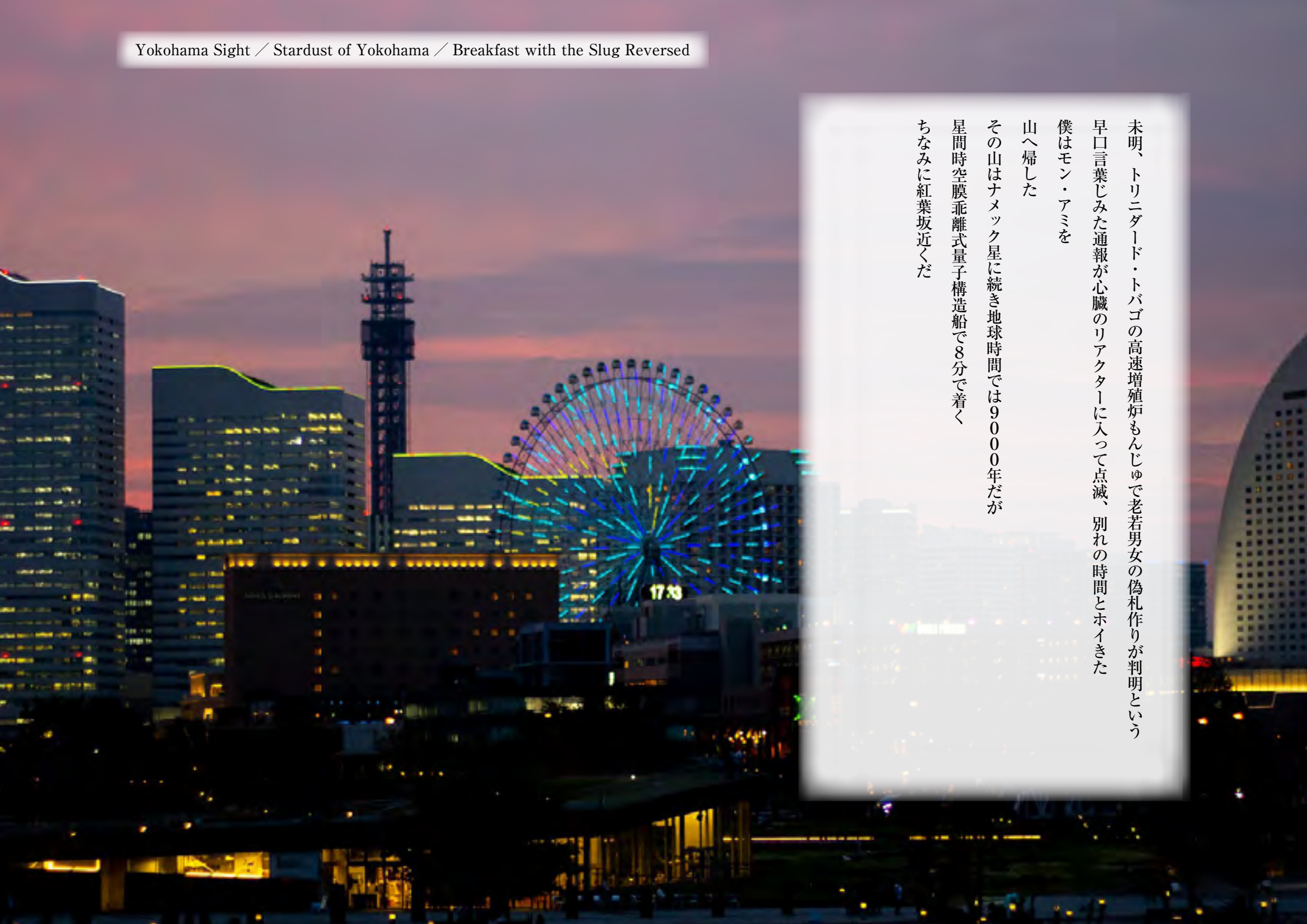
僕はモン・アミを

山へ帰した

その山はナメック星に続き地球時間では9000年だが

星間時空膜乖離式量子構造船で8分で着く

ちなみに紅葉坂近くだ



Breakfast with the Slug Reversed

鳥ノ海開

喫緊なる

近況を語り

近畿の禁忌を見張り

量子免役学を熟知する

ナメック星からの朋友は

無口な口と雄弁な触覚で

魔貫光殺砲ならぬ阿寒湖割烹を企てて

日本食と未来のために毬藻の養殖を提言してくれた（寿司ネタにいいらしい）

健啖家のよだれ舌に献上される Kobe Beef の贅を危ぶみ払暁の六甲山上空に堂々と現れ

牛舎の牛たち104頭を天の鳥船で引き上げていった過去の暴拳もいまは若気の至りか

あゝ大和しうるはし

緑色の肌を誇りにして平和を愛する友人は、涙腺を開けずしてしずしずと山へ帰った

それにしてもだ、クーベルタン男爵の理想はありや

オリンピック五色人種の運動会は元々中止されていて

地底に勤労している群青人だけでなく、緑のナメック星人はいなかったことにされている

インド人ならぬ Independent で聖賢なる紅肌の人種は

大陸にテントを張り広汎に営為していたが狭い自治区に追われ白い人たちの隷属だった

僕は金星に残してきた従姉妹に

グラハム・ベルが開発し損ねた糸電話で地上の時事些事を秋田弁雑じりにチリポリ伝える

トウキョウで五輪競技はやるんじゃないか、

志茂田景樹母さんの最新読み聞かせ童話CDを転送するね

深夜0時の港区の摩天楼に僕はとある約束を無くしたばかりに
塩気のない朝の食卓に着く

安全ピンで作った塹壕ラジオから〈時を戻そう〉という2人組の流行ギャグが聞こえる
サラダボールにナメクジを乗せてみる

〈時を戻した〉から

38時間前のキャベツ畑に

